

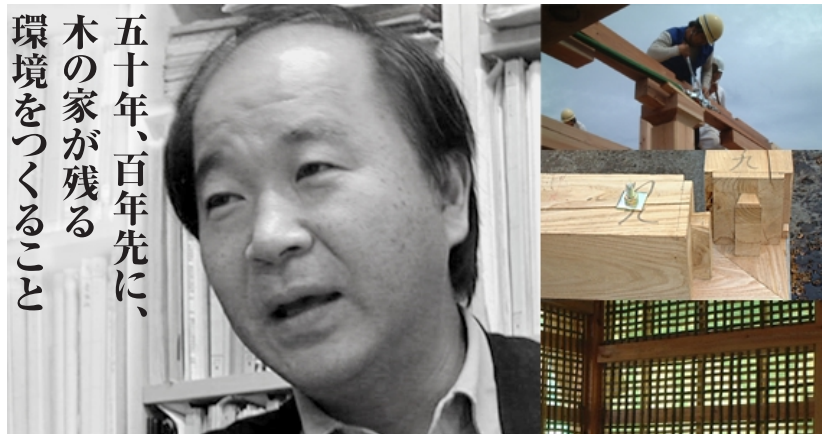


職人がつくる、日本の木の家。人に健康、環境にやさしく、いざという時に心強く、未長く愛着をもって住める家。そんな家を求めるあなたと、つくる私たちの縁結びのサイトです。

今月の内容

「つくり手インタビュー」第一回 風基建設 渡邊隆さん
12月のイベント
木の家ネットメンバー情報
おしらせ

「つくり手インタビュー」 第一回 風基建設 渡邊隆さん



五十年、百年先に、
木の家が残り、
環境をつくること

風基建設 代表 渡邊隆さん

- ・芝浦工業大学 建築史研究室に学んだ4年間、木曽路の奈良井町の町並み調査に関わる。
- ・1975年、田中文男率いる真木建設に入社。仕事は文化財の修復が主だった。
- ・1991年、真木建設代表となる。
- ・1983年ごろから民家型構法を積極的に手がけるようになる。
- ・1999年、真木建設精算に伴い風基建設をおこし、現在に至る。

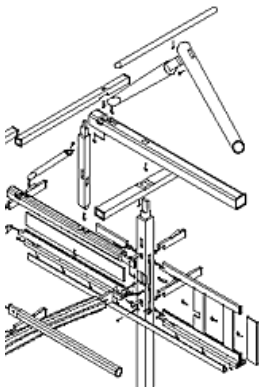
町並み調査や文化財修復から木の世界に入り、「民家型構法」に行き着きました。

学生時代は、建築史のゼミの学生たちで、木曽路の奈良井町という伝統的町並みを4年間、調査しました。町の人たちには、ほんとに世話になりましたよ。ちょうど高度経済成長で、どんどん古い建物が壊されていく一方で、保存論議も盛んになっていた頃です。同じ木曽路では、妻籠が古い町並みをそのまま保存し、観光に結びつけて成功していましたが、あれはなんだか映画のセットみたいだね。なんか違うな、と思ってね。で、奈良井では「生活する場として、伝統的町並みの保存を考える」ということをテーマに、住民の意識調査をしました。

号にでます。その後の仕事のほとんどが、国や自治体の文化財になっている寺社や民家の修復という幸せな時代でしたから、その中で木の仕事のおもしろさは自然と身につけていったんですね。恵まれていましたよ。

当時の真木建設の社長だった田中文男氏はすぐれた棟梁であるだけでなく、研究者であり、プロデューサーでもあります。ものを見る目もすぐれているし、経験の引き出しもたくさんもっている。建物を見ただけで、そこにどんな道具を使っていたかまで分かってしまう嗅覚と、建築を理論的にとらえる頭脳、行政とわたりあう力量とが、たった一人の人間

の中に全部ある、というのがすごいですよ。なかなかないですよ。でも、厳しい人だね。教えたことは100%できないとダメという人だから、なかなかついていくのがたいへんですよ。毎日怒鳴られながらたくさんのお話を学びました。特に教えられたのは「スジを通すこと」と、そして「バランス感覚」ということですね。



高麗神社の実測図面
詳しくは雑誌「ディテール」で

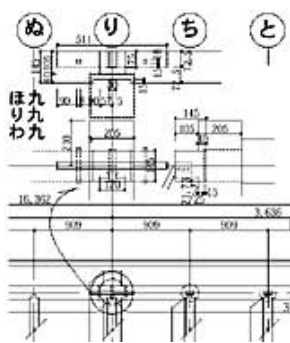
田中文男氏の親方の孫で岩瀬さんが大学の先輩だった関係で、真木建設に学生アルバイトで行くようになり、民家の実測などをしていたら、卒業後そのまま入社することに。はじめての仕事は、埼玉県日高市にある重要文化財、高麗神社の神官の家の修復でした。ひとつひとつの柱を実測して、どう組んでいるか調べることから仕事が始まるのですから、学校では習わなかった木の仕事を勉強させてもらったようなものです。こんどその時に調査した図面が、こんどディテールの冬

職人がくる 木の家

私が木でつくる新築の住宅に意識的に関わりはじめたのは、建設省が主催した「家づくり85」というコンペからです。田中文男氏がアドバイザーになり、現代計画にいた三澤文子さん、宮越喜彦さんたちと一しょになって、民家型構法の木の家づくりに取り組みました。1985年に建った「国産材の家」という林野庁のモデル住宅にそれが集約されています。その頃に考えたことが今の仕事にもつながっています。

考えはよかったんだけど、残念ながら行政がリードする木の家づくりは長続きしませんでしたね。木の仕事は手間がかかるのに、予算の関係でその部分のお金がなかなか出ない。で、大工にすれば「いい仕事だけれど、毎回はきついな」となってしまふんです。そのへんのコーディネーターがむずかしんですよね。

設計と施工との間の「翻訳作業」するのが、私の仕事。



翻訳図面の一例

「風基建設」を主宰している今では、個人住宅が主(残念ながら、文化財の仕事はもうほとんどめくりにしてしまっていて、これからはあまりないんですよ)です。都会だと建築基準法の防火規則の関係で大壁にせざるを得ないケースもありますが、できるだけ真壁で、架構の軸組が見える家を作っています。江戸時代に完成した町屋形式を現代に合った形で作るといったところ。年間1~2棟ある設計施工以外は、設計事務所の現場の仕事をしています。設計士からあがってくる設計図面をもとに、現場に添う形に書き直しています。最近では細かいところまで描き込んでくる設計士さんが多いんですが、木の家づくりの現場では、木のクセとか、細かい経験的な智慧が関わる部分も多く、そこは設計士の領域ではないから、結局は描き直しになる部分が出てしまふんですね。昔の設計士さんはいろいろ加減というか、おおらかなもので、基本設計だけして「こんな家、建ててよ」という感じでした。でも、今は几帳面に描きこんでくれることが多いので、きちんとしていっているんですが、二度手間になっちゃうことが多いんです。一応、見積もりに「施工図面作成」という項目で、少し予算をとっています。枚数描いている割には、ほんとにちょっとですけどね。そのあたり、設計との分業がうまくできてくるといいんですが。

理想的なのは、架構を決める段階から、設計と施工とでいいいに話し合いながら決めるというやり方ですね。12月に竣工するんですが、木の家ネットのメンバーでもある空間工房の間々田さんといっしょにやっている家があるケース

です。梁組を決める段階で、ああだ、こうだ、と話

しながら実施設計にもっていきました。予算の調整では苦労しましたが、仕事の進め方としては理想的ですね。

今は木の家ネットに参加している設計士さんたちのように木組みを勉強する人たちも出てきています。8、9割方のことはその方たちの努力によって「私家版仕様書」にまとめられている。でもね、ほんとうと面白いのは、そのあとの1、2割なんです。それが何なのかというと、大工の経験なんです。そんな智慧が、木の家ネットで共有されてくると、面白いんですけどね。当の大工は口べただからそういうことをなかなか口にしない。設計士も「自分の世界」が強い人が多い。どちらもある意味で、排他的なんです。その両者の間で、コミュニケーションをとることも私の役割でしょうね。設計と大工の間の風通しがよくなる、そんな「風基建設」でありたいですね。

家づくりの中でそうした対話が息ついてくれば、設計士はより自由な発想で「こんな考えちゃったけど、できる?」とアイデアをもちかけてくればいし、大工・工務店はそれを受けて、豊富な経験のひきだしの中から、それを実現する方法を考えればいし、お互いの役割を果たしながら、木の家づくりの可能性を冒険していければいいんだと思うんですよ。そうでないと、決まってきた技術の繰り返しになっていって、つまらなくなってくる。遊びの発想も大事です。そういう橋渡しができる工務店はまだまだ少数派ですけどね。



空間工房の間々田好博設計士組んでつくっている家の模型。この段階で梁組について話し合った

良い木の家が残っていくために必要なことが、たくさんある。

古くから残っていた建物の修復にかかわる仕事が多かったせいか、自分で作る家についても「これは、どう残すのか」ということをよく考えます。自分が作っている家が、五十年、百年と住み継がれていくものなのか?

そういうものにしていかなければ、と思えますよ。木の家というのは、大げさな言葉で、建った時から変形が始まるんです。家の構造に無理があれば、それが破壊につながってしまう。

だから、なるべく無理のない、柔軟な、あるいは後から修復可能な木組み、仕口・継ぎ手を考えるようにしています。住み継いでいくことのできる家になってほしいですからね。関わる全ての人たちのすぐれた智慧を結集すれば、そんな家が生まれ出せていけるのではないかと。思います。

ただね、そういういい家を実際に住み継がれて

職人がくる 木の家

いくのか、となるとこればかりは、建て方だけの問題ではないんですよ。まだ住める、あるいは直して住み続けられる、古い家、良い家がどんどん壊されている。日本は、家に対する所有意識が強く、古い家を壊そうが「自分の勝手」ですから…。お施主さんの意識にまで踏み込むのはむずかしい。家を建てる時はそのことだけで精一杯で、何十年先がどうの、ということまでは、なかなかね。古い町並みをちゃんと残しているヨーロッパの国々では、家は町並みをつくっている社会的財産でもあるという意識があるんですね。できるだけ直しながら住み継いでいこうとするし、国や自治体でもそれを援助します。古い家、良い家は社会のために残していくんだ、ということが個人にも行政にも徹底しているのです。

代替わりで壊す家も多いですね。親父の家に住みたくない、というだけでなく、相続税を払いきれないから、土地の評価を高くするために、家を取り壊して「土地の物納」を選ぶ人が多いことも関係しています。古い家を探すんだったら、不動産屋より相続担当の役人に聞け、などという笑い話のようなことも聞きます。古い家、良い家を残していくことはいいことだ、としても、そのがんばりが個人の財力に任されている日本では限界があります。文化庁が登録文化財制度をはじめましたが、国指定で3700棟、自治体指定まで含めてやっと10000棟といったところですよ。まだまだ少ないですね。これでは寺社仏閣や相当古い建物ではない「普通に住んできた良い家」が残っていきません。これからは昭和・大正期の建物にも対象が広がってくるということ

ですが、壊されていくスピードとどっちが早いのか…。また、登録した場合に、保存修復のための援助がきちんとできるかということも大事です。今は、指定されても「ふーん、そんなにいい家なんだ」というだけで、家を直すための設計や建築工事のお金が十分に出るところまでいってはいない。

個人で保存修復できない、相続税を払いきれない、住み継いでいくことのできない事情がある場合でも、建物が良いなら、何とかそれを壊さないで、社会的な利活用を考えていく、そんなことに行政が取り組んでいってもいいのではないのでしょうか。これからは行政にもお金がないんだから、思い切ってそういう家を、老人の憩いの家、こども一時保育施設、公共の借家、集会所なんかに使ってしまえばいいんですよ。建築工事費も浮くし、良い建物は使われていくし、一石二鳥ですよ。木の家を残す、住み継いでいく、木の家の文化を次の世代につなげていく、というためには、建て方だけでなく、さまざまな社会的な仕組みが必要です。家一軒をとどまらざるにいろいろな状況がある。その中で、どういことがクリアされていければ、木の家を住み継いでいけるような世の中になっていくのか。それをすべて解決するとなるととても大変ですが、せめて、その問題を整理し、数え上げていくところまでは、したいですね。木の家ネットでも、そういう広い範囲で「木の家づくりがしやすい環境づくり」を考えていけるといいと思っています。

参考資料のご案内

深川江戸資料館



真木建設が制作に関わった
深川江戸資料館

参考図書



「現代棟梁田中文男」
1998 INAX出版



「木造住宅【私家版】仕様書 架構編」
松井郁夫・小林一元・宮越喜彦共著
1998 建築知識



12月のイベント

2001.12.1 - 2

「新築現場見学会」

自由設計の家 (株)内田工務店

木組みで梁をあらわした丈夫なつくり、藁入り珪藻土の壁、無垢の床板などの自然素材のすばらしさなど、「自由設計・手づくりの家」の良さを是非ご覧ください。

日時 12月1日(土)、12月2日(日) 10:00-17:00

場所 東京都東久留米市小山1-8-9 西武池袋線東久留米より徒歩10分

問い合わせ 自由設計の家 株式会社 内田工務店

tel: 048-482-3939 fax: 048-482-3938 <http://kino-ie.net/uchida/>

2001.12.2

丹羽アトリエ

「伝統的な木組みで建てる自然素材の家」建前見学会

瀬戸市本郷町で行われる伝統工法による木造二階建住宅の建前。構造材は、産直木頭杉を伝統的な継ぎ手・仕口により組む。大工さん達が息を合わせて掛け矢を打ち、楔や鼻栓を込み、手刻みの柱や梁が、きっちりと組み上げられていく様は感動的。(丹羽明人アトリエ・丹羽明人)

日時 12月2日(日) 8:00-17:00

場所 愛知県瀬戸市本郷町(見学希望の方には、ご連絡いただければ地図を送ります)

問い合わせ 丹羽明人アトリエ tel: 0568-77-0638 fax: 0568-77-7024

e-mail: info@niwa-atelier.jp web: <http://www.niwa-atelier.jp/>

2001.12.8 - 9

「木造耐力壁ジャパンカップ」決勝トーナメント

一筋違い(スジカイ)ばかりが耐力壁ではないぞー
建築基準法では、木造住宅を建てる時に、地震や台風に対する耐力壁を造ることが規定されている。筋違いなどで壁を固める方法が一般的だが、金物で取り付けられた筋違いはどれだけの強さをもつのか? 耐力壁は粘る性質のほうがよいとも言われているが...? 実際に「力比べ」をして、確かめてみよう、というのがこの「木造耐力壁ジャパンカップ」。9月末に日本建築専門学校で行われた予選を勝ち抜いてきた8体の耐力壁同士、綱引きをさせて勝ち負けを競う。その引き合う力は3~4t程度。耐力壁がどのようにきしみ、どのような壊れ方をするのかを確認できる、またとない機会。(木住研・宮越喜彦)

日時 12月8日(土)~9日(日)

詳細については

http://www.mokushin.com/public_html/tairyokuheki.htm参照。

会場 ものつくり大学 建設棟 テンバー実習室

TEL/FAX 048-564-3855(稲山研究室)

問い合わせ 木構造振興株式会社 TEL 03-3585-5595

FAX 03-3585-5598

e-mail: tairyokuheki@mokushin.com

2001.12.8

和田工芸 かたろう会

「木サッシュ 結露防止について」

和田工芸で主催する暮らし全般の情報交換の場「かたろうかい」の12月例会。今月はフォレスト西川の河合氏、吉原建築研究所の吉原氏による「木サッシュ結露防止について」のお話。(和田工芸 和田勝利)

日時 12月8日(土)18:00-

会場 株式会社 和田工芸事務所

JR宇都宮線または東武伊勢佐木線久喜駅西口よりタクシーで10分位(下清久の和田工芸で分かります)

会費 1000円

お申し込み 和田工芸までご一報ください!! TEL 0480-22-

4119 e-mail: wadakogei@wadakogei.co.jp

2001.12.9

松井郁夫建築設計事務所

「金沢文庫の家」建前見学会

法規チェックの厳しい横浜市でいかに金物に頼らない木組みを可能にするかという先進的な試みをした木造住宅の建前。立ち上がりのあるベタ基礎、半足固め・貫構法による構造解析、バランスのよい耐力壁の配置、構造と間取りの工夫などにより、引抜きホールダウン金物不要の伝統構法を可能にした。施工は松永工務店。(松井郁夫建築設計事務所 松井郁夫)

日時 12月9日(日) AM10:00~PM4:00

会場 神奈川県横浜市金沢区西釜利谷5-20-18

京浜急行金沢文庫駅西口バス停1番乗り場野村住宅センター行きで15分、終点野村住宅センター下車1分

当日連絡先 松井携帯 090-1428-2746 畔上携帯 090-2163-2537

問い合わせ 松井郁夫建築設計事務所 tel: 03-3951-0703 fax: 03-5996-1370

e-mail: matui-i@mx2.nisiq.net web:

<http://www1.nisiq.net/matui-i/>

イベント情報をお寄せください。毎月15日締め、25日掲載と なります。

木の家ネットメンバー情報

【新規加入】

古民家工房 高橋儀智さん、目時工務店さん(プランAの紹介ページあり)、渡邊工務店 渡邊正司さん、西島建具店さん、芳賀左官 芳賀信男さんが新しく参加されました。

【住所変更】

・木住研 宮越喜彦さん(設計)新住所=358-0003 埼玉県入間市豊岡 4-1-6 tel&fax:042-966-6609 ・恒河舎 寺川千佳子さん(設計)新住所=431-3125 浜松市半田山3-45-6 tel&fax: 053-434-9213

おしらせ

・2001年11月号より、バックナンバーを発行し、「木の家ネット」のコンテンツをオンラインでご覧になれない会員の方にファックスでお送りするサービスを始めました。パソコンをお使いになるようになられましたら、木の家ネット事務局衣袋(tel&fax:03-5393-3640 jimukyoku@kino-ie.net)までご一報ください。